



市制施行記念 **大網白里市**

Hello,
New Born **City**



Oamishirasato City

Contents

- 1 継往開来・市長あいさつ
- 3 みんなでつくろう! 住みたい・住み続けたいまち
- 5 OSCサポーターからの応援メッセージ
- 6 発展のために尽力された名誉町民
- 7 大網白里市への道
- 9 ふるさと歳時記
- 11 大網白里ブランド
- 13 資料編 数字でみる大網白里



継^け往^い開^か来^い

先人の事業を受け継ぎ
未来を切り拓く



豊かな自然と都市が共存する、わたしたちの大網白里は、1月1日から「大網白里市」として、新たなスタートを切りました。

合併当時、農業と漁業が中心だった町は、経済成長や交通網の整備を契機に、首都圏の「ベッドタウン」として順調に人口が増加し、平成22年の国勢調査で5万人を突破したことから、市制へと舵を切りました。

市制施行により、都市的なイメージが高まり、企業や商業施設の進出で就労の場が充実し、財政基盤の向上につながるほか、県から一部事務事業の権限が委譲されたことで、住民の利便性がいっそう向上することになると、期待しています。

現在、市では「未来に向けてみんなでつくろう！住みたい・住み続けたいまち」を基本理念にした総合計画の各施策を進めています。

今日まで郷土・大網白里の歴史を作り上げた方々に深く感謝するとともに、その軌跡を受け継ぎ、さらに発展させ、誰にとっても住みやすく、また、住み続けたいまちになるよう努力してまいります。

平成25年1月

大網白里市長 金板昌典

大網白里市、スタート！

市内の子どもたちと白里海岸にて。
子どもたちの笑顔があふれ、誰もが温かい気持ちでいられる市を目指す。

未来に向けて

みんなであつくりろう！

住みたい・住み続けたいまち

大網白里市は、丘陵の緑、田園の緑、海岸の白砂青松などの豊かな自然環境と五団地に代表される都市環境が共存しています。

市では「明るく、豊かな、住みよい田園文化都市の実現」と、市民一丸となってまちづくりに取り組む「住民参画と協働の推進」を基本理念とした総合計画を定め、まちづくりを進めています。

今後も、総合計画の目指す将来像「未来に向けてみんなであつくりろう！住みたい・住み続けたいまち」を実現できるよう各施策に取り組みます。

〈将来像を実現するために〉

○まちづくり施策の大綱

健康で生きがいのある 大網白里（保健・福祉の充実）

- ・生涯を通じた健康づくりの推進
- ・安心して暮らせる福祉の推進

新しい文化を育む 大網白里（教育・文化の充実）

- ・心豊かな子どもたちの育成
- ・生涯を通じた学習活動の推進

快適で便利な都市機能が充実する 大網白里（都市基盤の整備）

- ・総合的な交通体系の整備
- ・魅力ある街づくりの推進
- ・快適に暮らせる生活環境の整備

豊かな自然と生活が調和する 大網白里（自然環境との共生）

- ・低炭素の社会づくりの推進
- ・循環型の社会づくりの推進
- ・水と緑の空間づくりの推進

安全な暮らしを確保する 大網白里（安全・安心の確保）

- ・災害に強いまちづくりの推進
- ・安全な日常生活の向上

賑いある産業と観光を育てる 大網白里（産業・観光の振興）

- ・環境変化に対応する産業・観光の振興
- ・雇用・就労の場の充実

○まちづくりの推進

住民と行政が協働するまちづくり（協働のまちづくり推進）

- ・住民参画の仕組みづくり
- ・男女共同参画、交流の力
- ・効率的な行財政運営（行財政運営）
- ・行財政改革の推進



Oamishirasato City

大網白里市

大網白里市（おおあみしらすとし）は、東京都心から50～60km圏域に位置し、九十九里平野のほぼ中央にあり、西は緑豊かな丘陵部、中央は広大な田園部、東は白砂青松の海岸部という特色ある豊かな自然を持つ風土を有しています。

発展のために尽力された

名誉町民



とえだ ゆうぞう
十枝 雄三
(1873~1956)

明治6年11月21日東金市押堀で生まれ、明治26年十枝家(福岡村北吉田)の養子に迎えられる。
若いときから数多くの公職を歴任。
昭和8年60歳のとき推されて福岡村長に就任、同14年県会議員に当選。
両総用水事業の生みの親であり、大網白里町誕生の功績者でもある。
昭和31年7月大網白里町名誉町民(第1号)に。同年10月12日83歳で逝去。



いしの そういちろう
石野 操一郎
(1883~1964)

明治16年7月8日石野家の長男として生まれ、先祖代々の家業である酒造業を継承。
若くして大網町議会議員、山武郡会議員に、さらには38歳で県会議員に当選、昭和6年12月から昭和21年1月まで4期15年余りにわたって大網町長に就任、満州事変から太平洋戦争へ、そして、その処理など激務の連続であったが、献身的に努力された。
昭和38年9月大網白里町名誉町民(第2号)に。同39年6月21日82歳で逝去。



うちやま なか
内山 仲
(1895~1964)

明治28年3月20日、細草で生まれる。
昭和24年3月白里町長に当選。昭和29年12月町村合併により、初代大網白里町長に無競争で当選。
昭和39年8月に逝去されるまで、多難な合併後の町政を円満に処理し、町発展の基礎を築かれた。「政治は人の和である」を座右の銘とし、69年の生涯でただ念頭にあったのは、町のため人のためであった。
昭和39年8月7日大網白里町長として3期目の3年目に病気で急逝、名誉町民(第3号)の称号を追贈。



かとうおか せいいち
加藤岡 誠一
(1924~2000)

大正13年2月26日、南今泉で生まれる。
昭和50年1月から3期12年第四代大網白里町長を務める。当時、無秩序な宅地開発により急激に生活環境が悪化していた。その対策に昭和54年10月「町民憲章」を制定し、さらに昭和58年5月に一部都市計画決定、五団地構想とともに公共下水道の推進を図った。
平成6年4月勲五等双光旭日章、平成12年6月叙位正六位。同年6月7日に76歳で逝去。
平成13年9月名誉町民(第4号)の称号を追贈。



宮間 あや

PROFILE

1985年1月28日生まれ。四天木出身で、白里小・白里中卒業。女子サッカー選手(岡山湯郷Belle所属)。サッカー日本女子代表(なでしこジャパン)メンバーとして、2011年FIFA女子ワールドカップドイツ大会の優勝、2012年ロンドンオリンピックの銀メダル獲得に大きく貢献。2011年と2012年に町民栄誉賞受賞。



大網白里市の大きな財産は「人」。
世界を舞台に活躍する2人の「大網白里サポーター」から、ふるさと・大網白里にメッセージをいただきました。

土居 美咲

この度は、大網白里市誕生本当におめでとうございます。
私のテニスの原点は、みずほ台のセンター公園のテニスコートです。両親がそこでテニスをしていて、一緒に付いて行っていたのが始まりでした。大人の人達に混ざってテニスに明け暮れていた日々を思い出します。
学生生活では大網中での三年の体育祭が印象的です。仲間と一つの事を成し遂げられたのは一生の宝物です。

大網白里で過ごした日々でたくさんの友達や仲間に出会う事が出来ました。そして今の私にとって地元に戻れる場所があるというのは大きな財産です。いつ帰ってもホッとできる場所がある、ツアーを回る上でも大きな支えになっています。
子供の頃お世話になった大網白里や地元の皆さんに、今度はテニスを通じて私が恩返しをできるように精一杯頑張りたいと思います。そして大網白里市が今後より発展していくことを願っています。

宮間 あや

新市発足、誠におめでとうございます。
この度私の生まれ育った、歴史と自然の豊かな大網白里が新たに大網白里市としてスタートする事を大変嬉しく思っております。
私自身は白里小学校、白里中学校に通い、この地で多くの事を学び現在私がサッカー選手として、また、いち社会人として生活する上での基礎をつくりあげていただいたと思います。

一昨年、昨年と女子サッカードイツワールドカップ、ロンドンオリンピックでは大変多くの地元の方の声援のおかげでワールドカップ制覇とオリンピック銀メダルという成績を残すことができました。人の力というのは本当に大きなものでどんなに辛い苦しい時でも本気の思いは人を動かすことができます。そして、人が人を笑顔にすることができます。
大網白里市にはそんな素敵な人達がたくさんいると思います。
大自然と素敵な人達が、より良い大網白里市を共に作り上げていくものだと思っています。私の大好きなこの市がいつも笑顔あふれる市でありますように、いつでも願っています。

大網白里市 OSSCサポーターからの 応援メッセージ



土居 美咲

PROFILE

1991年4月29日生まれ。みずほ台出身で、瑞穂小・大網中卒業。女子プロテニス選手(ミキハウス所属)。2011年ウィンブルドン選手権で2度目の4大会の予選突破を果たし、3回戦進出。世界ランキング:シングルス94位(2012年12月10日現在)、日本ランキング:シングルス2位(2012年10月29日現在)。2011年に大網白里町特別顕彰受賞。



Oamishirasato City

市街地の変化

市庁舎から望む駅前の風景は30年前と比べ、大きく姿を変えました。区画整理や商業施設の進出など、現在も変化を続けています。



昭和54年



平成24年

Oamishirasato City

町から市へ

58

年の歩み



合併当時

昭和29(1954)年、2町1村の合併で大網白里町が誕生し、役場は旧大網町役場に置かれました。その後、庁舎は昭和31(1956)年にも移転し、現在の場所には昭和47(1972)年に移転しました。

1954

2町1村の合併で誕生した大網白里町は、交通網や住宅環境の整備で、人口が大きく増加し、平成25年1月、県内で37番目の市として新しいスタートを切りました。市の誕生まで、歩んだ軌跡を振り返ります。

大網白里市への道

1954~2013

出来事

- 昭和29年12月1日 大網町、増穂村、白里町が合併し、大網白里町に町章が決定
- 30年7月1日 大網98番地に役場庁舎の位置を変更
- 31年9月1日 日本納町清水の一部を合併
- 32年11月1日 救護施設房総平和園が開設
- 33年5月1日 国鉄永田駅が開業
- 34年3月20日 町営ガス供給が開始
- 39年8月1日 町営水道給水が開始
- 40年6月1日 山辺小学校を大網小学校に統合
- 45年3月31日 中央公民館が開館
- 45年6月1日 町の木がモクセイに決定
- 46年4月1日 増穂中学校を大網中学校に統合
- 46年4月1日 白里高等学校が開校
- 47年2月1日 現在の場所(大網115番地2)に、役場庁舎の位置を変更
- 47年5月26日 国鉄大網駅が移転、スイッチバックが解消
- 47年6月17日 波乗り道路が開通(九十九里一宮)
- 47年7月1日 国道128号バイパスの一部(経田新掘)が開通
- 外房線に初めて特急電車が走る
- 48年7月1日 組合立国保郡南病院が移転新築
- 49年7月1日 老人福祉センターが開校
- 49年12月1日 大網幼稚園舎が完成。増穂幼稚園舎が完成
- 49年12月1日 白里公民館が完成
- 50年2月9日 白里幼稚園舎が完成
- 51年5月20日 社会福祉協議会が設立
- 52年4月29日 弓道場が完成
- 52年11月2、3日 第1回産業文化祭を開催
- 53年5月21日 町営野球場、青少年研修センターが完成
- 54年2月23日 群馬県中之条町と友好姉妹町を締結
- 54年10月5日 町民憲章を制定
- 55年3月25日 柔剣道場が完成
- 56年3月25日 増穂幼稚園の移転新築舎が完成
- 58年5月24日 西部地域の一部分が都市計画区域に
- 59年1月10日 瑞穂・駒込土地区画整理事業がスタート
- 59年3月25日 第一保育所が新築移転
- 59年11月30日 白里地区スポーツセンターが完成
- 60年4月1日 国保郡南病院が町立病院としてスタート
- 61年4月11日 福祉会館が完成
- 61年5月2日 農村婦人の家(現・農村ふれあいセンター)が完成
- 62年4月1日 大網東小学校が開校
- 62年4月18日 保健文化センターが完成
- 62年4月18日 増穂中学校が開校
- 平成元年4月1日 全町が都市計画区域に
- 2年3月10日 外房線・東金線に京葉線が乗り入れ
- 2年5月13日 朝市がスタート
- 3年3月31日 浄化センター(1期工事)が完成
- 3年4月1日 公共下水道の一部供用開始
- 3年8月26日 役場分庁舎が完成
- 4年4月1日 瑞穂幼稚園が新築移転
- 5年7月19日 郡界道路が開通
- 6年3月1日 町の花がコスモスに決定、町のキャラクター「マリ」が決定
- 6年4月1日 増穂北小学校が開校
- 6年4月1日 第二保育所が新築移転
- 6年5月20日 中部コミュニティセンターが開校
- 8年4月1日 増穂保育所が開所
- 8年5月1日 国保大網病院が新築移転
- 8年5月30日 小中池公園が開校
- 11年3月23日 シルバー人材センターが設立
- 11年4月1日 季美の森小学校が開校
- 11年8月21日 初の地曳きまつりを開催
- 13年4月20日 農村環境改善センターが開校
- 13年12月16日 白里遊楽市がスタート
- 14年3月13日 一般廃棄物最終処分場アクリンオアシス大網が竣工
- 15年4月1日 白里公民館の改築工事が完了、白里図書館が開校
- 16年7月15日 市民農園「あおぞら農園」が開校
- 17年8月19日 住民基本台帳登録で人口5万人達成
- 18年8月8日 大網白里アリーナが開校
- 20年4月1日 山武農業高等学校・白里高等学校が合併し、大網高等学校が開校
- 22年10月1日 10月23日 ゆめ半島千葉国体バレーボール競技少年女子種目を開催
- 22年10月23日 ゆめ半島千葉大会バレーボール競技身体障害者種目(聴覚障害の部)を開催
- 23年2月25日 国勢調査速報値で人口50,122人を達成
- 24年4月1日 (確定値:50,113人) 大網小学校がみどりが丘に新築移転
- 25年1月1日 コミュニティバスが本格運行
- 市制施行



人口が5万人に

平成17(2005)年、住民基本台帳人口が5万人を達成。それから5年後の平成22(2010)年の国勢調査速報値で人口50,122人を達成し、市制施行の人口要件を満たしたことから、市制への準備を進めました。

2005



国体の舞台

平成22(2010)年、千葉県で国民体育大会・全国障害者スポーツ大会が開催され、大網白里アリーナがバレーボール種目の会場となりました。

2010



「大網白里市」の誕生へ

平成25(2013)年1月1日、市制施行。1月4日には、開市式を行い、新たな門出を祝いました。

2013



友好の始まり

昭和54(1979)年、群馬県中之条町と友好姉妹町を締結。以来、交流を育んできました。

1979



シンボル決定

平成6(1994)年、町制施行40周年を記念して、イメージキャラクター「マリ」、町の花「コスモス」が公募で決定。コスモスは引き続き市の花に、「マリ」は市制施行を機にリニューアルしました。

1994



交通網の整備

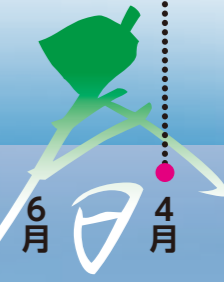
昭和47(1972)年に、大網駅が現在の場所に移転し(写真上)、同年、国道128号バイパスの一部(経田~新掘)・波乗り道路(九十九里~一宮)も開通しました(写真下)。交通網の整備は、人口増加の呼び水となりました。

1972



ふるさと歳時記

緑と太陽そして海。
環境に恵まれた大網白里市の四季折々を紹介します。



4月 鯉のぼりまつり

小中池公園の池の上を、50匹以上の鯉のぼりが元気に泳ぎます。

6月 ハマヒルガオ

白里海岸の砂浜を、ピンク色の可憐な花が彩ります。

消防ポンプ操法大会

市消防団が、日ごろ訓練で身に付けたポンプ操法の技術を競います。

7月 海水浴場オープン

白里海岸には「中央海水浴場」と、「南四天木海水浴場」の2カ所の海水浴場があり、都心からの交通アクセスに優れているため、例年多くの海水浴客で賑わいます。



8月 地曳きまつり

白里海岸を舞台に、市内外の団体がよさこいソーランやぼさま踊りを披露。フィナーレはダイナミックな花火です。

ひまわり畑

「ひまわりの里山辺実行委員会」では、農村ふれあいセンターやまへの郷前とJR外房線陸橋下でひまわりを栽培しています。一面のひまわり畑は壮観です。



10月

産業文化祭(産業の部)

とれたて新鮮で安心な地元農産物や海産物等をお手ごろ価格で購入できます。

11月 産業文化祭(文化の部)

市で活動している団体等が、日ごろの学習成果を発表します。郷土芸能保存会による郷土芸能の発表会も同時に開催しています。

1月 元旦祭

白里海岸には、毎年多くの方が、雄大な太平洋から昇る崇高な朝日を見にやってきます。紅白もちや甘酒の無料配布も行われています。

成人式

新成人の門出を祝い、大網白里アリーナで式典を開催します。

出初式

市消防団の年初めの恒例行事。決意を新たに、規律のとれた闊歩(かっぱ)訓練や分列行進を披露します。

新春マラソン大会

小学生以上のランナーが、日ごろのトレーニングの成果を競います。





落花生

九十九里の潮風に吹かれ、甘みと旨みが増した、豊かな味わいの落花生。さまざまな加工品も販売されています。



イワシのみりん干し

九十九里沖で漁獲されたイワシを、特製ダレに漬け込み干した、この地域の代表的な水産加工品「イワシのみりん干し」。焼きたては甘くて香ばしく、年齢を問わず親しまれています。従来のもよりやわらかく作られた「ソフトみりん干し」は大網白里が発祥の地。

野菜

キュウリにトマト、ネギ、ダイコン、サツマイモなど、幅広く収穫されており、一年を通じて、旬の新鮮な野菜が味わえます。



白里遊楽市

毎週日曜日、農村環境改善センター駐車場で地元産の野菜や魚、水産加工品などを販売しています。5～9月は16時～17時、10～4月は15時～16時に開催。



朝市

毎週日曜日、市役所駐車場で地元産の野菜や魚、水産加工品などを販売しています。5～9月は7時～7時30分、10～4月は8時～8時30分に開催。

ハマグリ

海の幸として、人気が高い貝類。海水浴シーズンには、海の家でとれたてを食べる「焼きハマグリ」が人気です。



イワシのゴマ漬け

この地方に伝わる郷土料理の1つ、「イワシのゴマ漬け」。九十九里沖でとれた新鮮なイワシの酢漬けにゴマをまぶしたもので、日常の食卓のほか、酒の肴や行事食としても親しまれています。

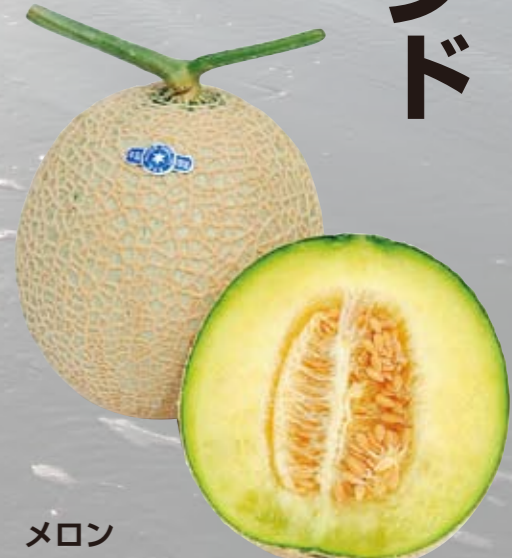
ナシ

市内に点在する栽培農家では、豊水・幸水・新高など、みずみずしくて甘い品種が味わえます。



煮干し

九十九里海岸では江戸時代以来、イワシの地曳き網漁が盛んで、煮干しの生産量は全国トップクラス。水上げされたイワシを塩水で煮た後、天日で干され、乾燥した煮干しは、水分が少ない分だけ良質のタンパク質を含んでいます。



メロン

マスクメロンの王様、アールスメロンが栽培されています。甘みが強く、みずみずしいのが特徴です。

とれたての新鮮な野菜に魚介、全国的にも有名な水産加工品。豊かな海と大地からは四季折々に、さまざまな食材が生み出されます。「地産地消」の高まりから、市内の生産者から新鮮な品を直接購入できる、朝市・白里遊楽市が人気です。

大網白里ブランド

● 駅の日平均乗車人数 (資料：千葉県統計年鑑・東日本旅客鉄道(株)千葉支社)

※永田駅は昭和34年3月20日開業

単位:人

年度	計			大網駅			永田駅		
	定期	普通	計	定期	普通	計	定期	普通	
昭和29年度	2,938	1,999	939	2,938	1,999	939	—	—	
昭和34年度	3,793	2,777	1,016	3,603	2,619	984	190	158	
昭和53年度	6,617	4,836	1,781	6,381	4,604	1,777	236	232	
平成3年度	9,843	7,294	2,549	9,452	6,934	2,518	391	360	
平成14年度	12,590	9,553	3,037	11,307	8,525	2,782	1,028	255	
平成22年度	12,240	9,584	2,656	10,938	8,515	2,423	1,069	233	

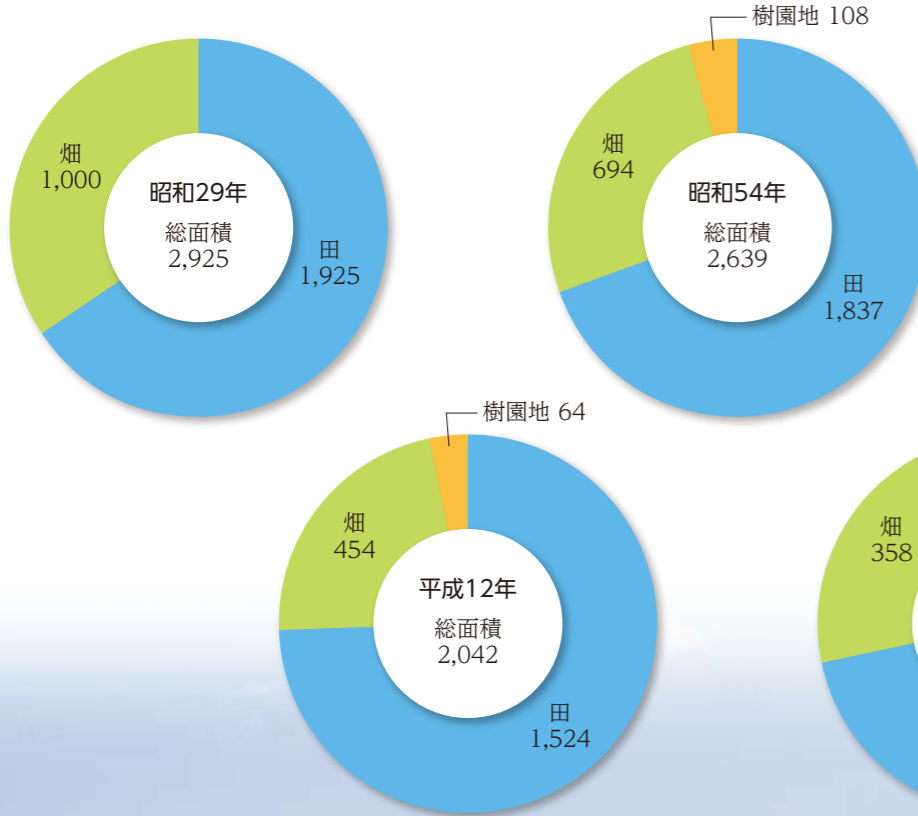


● 経営耕地面積

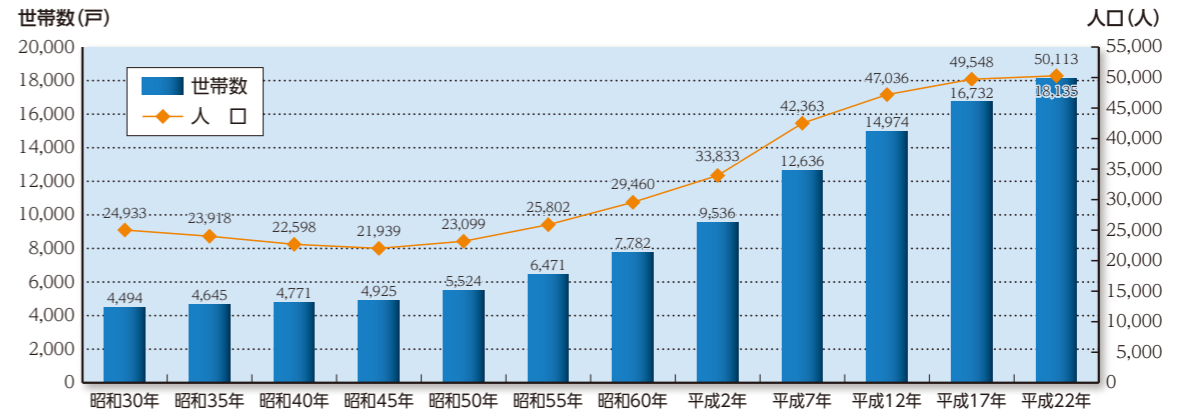
(資料：世界農林業センサス、冬期農業調査、農林業センサス、農業基本調査結果概要)

単位:ha

各年2月1日現在



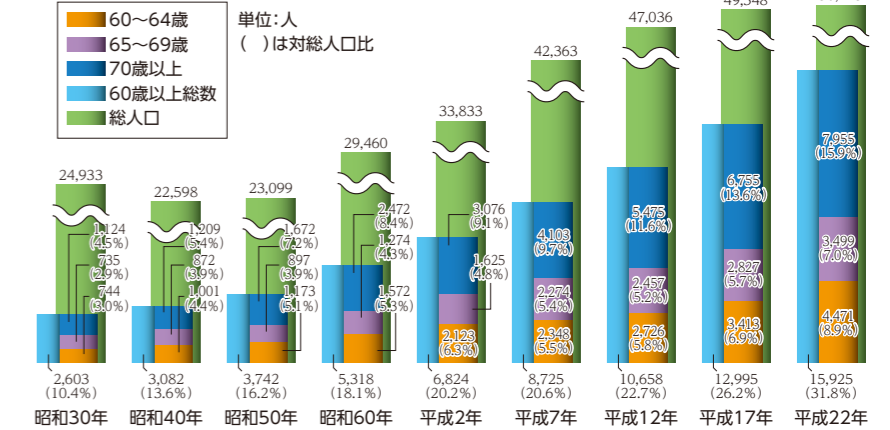
● 人口と世帯数の推移 (資料：国勢調査) 各年10月1日現在



● 人口動態 (資料：千葉県統計年鑑) 各年中の件数



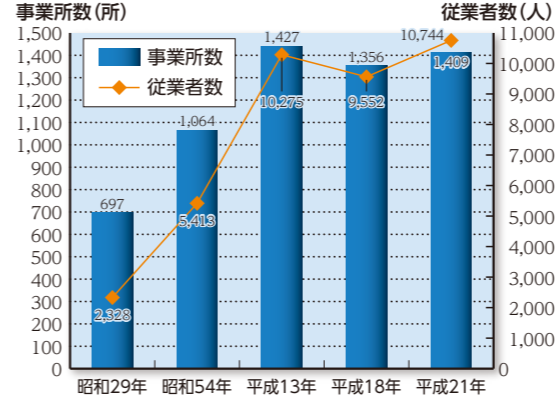
● 高齢人口の推移 (資料：国勢調査) 各年10月1日現在



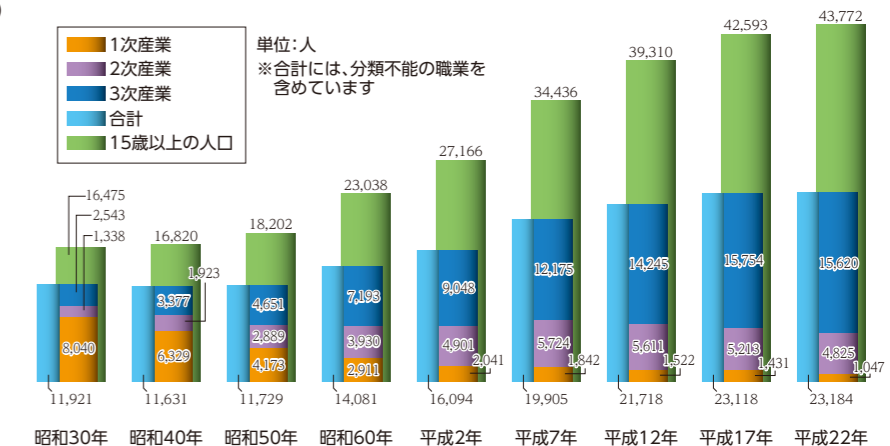
● 産業大分類・事業所数および従業者数

(資料：事業所・企業統計調査、経済センサス基礎調査)

※平成21年を除く、各年10月1日現在 ※平成21年は7月1日現在



● 産業分類別15歳以上就業者数 (資料：国勢調査) 各年10月1日現在



● 児童数・生徒数の推移 (資料：学校基本調査) 各年5月1日現在

※小学校の合計数値のうち、昭和29年は白里小・山辺小、昭和39年は山辺小の児童数は含まれていません。

単位:人

年度	小学校	中学校
昭和29年	1,705	1,600
昭和39年	2,301	1,802
昭和49年	1,929	999
昭和59年	2,874	1,288
平成6年	3,432	1,792
平成16年	3,145	1,752
平成24年	2,549	1,414



Oamishirasato City



市の花「コスモス」

赤、白、ピンク、黄と華麗に咲くコスモスは、誠実で清楚、愛らしい姿が多くの人に親しまれています。平成6年に「町制施行40周年」を記念して、調和した町の発展を願い、町民からの公募をもとに決めました。



市章

大網白里の「大」の字を図案化したもので中央の円は穀倉地帯、周囲の浪の花は太平洋の波とうを表しています。昭和30年に公募で決めました。



市の木「モクセイ」

モクセイは、楕円の葉に小さな花をつけ、芳香を放ちます。「緑豊かで清らかな香りあふれる町に」との願いを込め、昭和45年に決めました。



市のキャラクター「マリリン」

平成6年に町制施行 40 周年を記念して、町民からの公募でデザインを決定。市制施行を機にリニューアルしました。笑顔と、豊かに波打つヘアースタイルが自慢です。

大網白里市市民憲章

緑と太陽そして海、ふるさと大網白里市は環境に恵まれています。わたくしたちは、「明るく、豊かな、住みよい田園文化都市」づくりと、まちの限らない発展を願い、この市民憲章を定めます。

- 一、自然を大切にし、健康で安全なまちをつくりましょう。
- 一、ほこりをもって働き、豊かな、ゆとりあるまちをつくりましょう。
- 一、ふるさとを愛し、香り高い文化のまちをつくりましょう。
- 一、老人に安らぎを、若者には夢のあるまちをつくりましょう。
- 一、笑顔で助けあい、心のふれあうまちをつくりましょう。

(昭和54年10月5日制定)